

## 第4期中期経営計画 平成29年度実績評価

### I 推進の経過

当公社では、外部有識者である専門家を含む委員で構成する「経営計画マネジメント委員会」を設置して、経営の改善に向けた方針を明確にし、計画的な取組みを行うため、平成18年度から中期経営計画を策定するとともに、年度毎に進行状況の検証・評価も行いながら、経営の改善や効率化に努めてきた。

- ※ 第1期計画（期間：平成18～20年度）
- 第2期計画（期間：平成21～23年度）
- 第3期計画（期間：平成25～27年度）
- 第4期計画（期間：平成28～30年度）

第4期計画2年次の平成29年度については、有料道路事業の福島空港道路では、「安全・安心・快適な道路環境とサービスの提供」を最重点事項として、福島県と連携して適切な維持管理に努めた。

また、利用促進面では、料金所における広報チラシの配付や沿線地域で開催されるイベントへの参加などによる、利用の促進と回数券利用の広報の取組みを行った。これらにより、通行台数、料金収入ともに計画値を上回る事ができた。

次に、有料駐車場事業については、定期的な清掃等による良好な駐車環境確保の継続を図るとともに、ホームページへの利用者募集の掲載や現地看板の設置などの利用促進の取組みを実施したが、平跨線橋駐車場(いわき市)が福島県による橋梁補修工事の実施に伴い、閉鎖期間が生じたため、利用台数、稼働率、料金収入は目標値を下回る結果となった。

次に、経営の効率化については、計画どおり嘱託職員の再雇用による継続や事務経費の見直しなどにより経費の節減に務めた。

なお、計画の推進にあたっては、公社内委員によるマネジメント委員会を毎月開催して、計画の進行管理と推進を図った。

## II 経営目標の達成状況

### 1 有料道路事業

平成29年度の福島空港道路の通行台数及び料金収入実績は、全線開通による時間短縮効果や回数券利用による利便性の浸透、市町村除染土壌の運搬等による大型車両などの通行台数の増加により、計画目標値を上回る実績となった。

回数券販売収入額	対前年度 19.6%増
回数券利用による通行台数	対前年度 23.1%増

	実 績		対 比 B/A	計画目標値			達成率 B/D
	28年度 A	29年度 B		28年度 C	29年度 D	30年度 E	
1日通行台数	1,336	1,383	103.5	1,321	1,347	1,373	102.7
年間通行台数	487,761	504,901	103.5	482,165	491,655	501,145	102.7
年間料金収入	156,410	162,742	104.0	151,881	156,346	159,364	104.1

### 2 有料駐車場

平成29年度の有料駐車場の駐車台数、稼働率、料金収入実績は、日吉跨線橋駐車場（会津若松市）の利用が増加したものの、平跨線橋駐車場（いわき市）が橋梁補修工事の実施に伴い閉鎖期間（9ヶ月間）が生じたことにより、計画目標値を下回る結果となった。

	実 績		対 比 B/A	計画目標値			達成率 B/E
	28年度	29年度		28年度	29年度	30年度	
駐車台数	250	239	95.6	250	251	252	95.2
稼働率	94.3	90.2	95.6	94.3	94.7	95.0	95.2
駐車場料金収入	22,919	21,837	95.3	23,086	23,558	23,616	92.7

### Ⅲ 主な施策及び具体的な取組の評価

#### 1 有料道路事業（福島空港道路）

##### ① 有料道路の利用促進

ア 地域と連携したPR活動の展開と新規利用者の開拓

・沿線地域等で開催されるイベント等に参加し、パンフレットの配付や利用による利便性の説明などの利用促進活動を行った。

※平成29年度の主な参加事業

- ・とうろくくんまつり（矢吹町）
- ・県南地域首都圏PR事業（東北自動車道羽生PA）
- ・いわき・県南地域首都圏PR事業（常磐自動車道友部SA）

・料金所において利用広報チラシ、周辺観光地等のパンフレットを配付した。

・公社ホームページへ、回数券料金情報を盛り込んだ近隣地域イベント開催情報等を掲載した。

##### ② 利用者の安全・安心の確保

ア 道路施設の計画的な維持管理

・定期及び臨時の適時・適切な道路パトロール及び道路の維持管理（除草、側溝清掃、舗装の応急穴埋めや早期修繕、冬期間の雪氷対策等）を行った。

・維持・管理費用について、維持改良費は舗装や区画線等の補修が想定より少なかったことなどにより当初計画を下回った。一方、道路管理費は労務費単価の引上げ等による料金收受業務委託料等が増加した。

イ 災害時・緊急時の体制の確立

・年度初めに、公社内における緊急時の連絡体制及び警報待機体制の確認を行った。

・福島県の関係建設事務所との調整会議、冬期道路交通円滑化会議等を行い、県道路管理者等との情報共有化を実施した。

##### ③ 適切な入札制度・契約制度の実施

・維持管理業務実施体制の確保と入札事務の軽減を図るため行っている「一括契約・共同受注方式」及び「公募型プロポーザル方式」による入札を継続して実施した。

## 2 有料駐車場事業

### ① 既存駐車場の利用促進

- ・各駐車場の定期的な除草・清掃の実施や鳥害対策を行うなど良好な駐車場環境の確保に努めた。
- ・ホームページへの利用者募集、空き情報の提供や現地への募集看板の更新等を行い利用促進に努めた。

## 3 道路管理受託事業

### ① あぶくま高原道路管理受託事業

- ・福島県との委託契約に基づき、有料道路と隣接する矢吹 I C～矢吹中央 I C間及び玉川 I C～福島空港 I C間の2つの区間について、一体的な維持管理を行った。
- ・有料道路区間と同様に、「安全・安心・快適な道路環境とサービスの提供」を最重点事項として道路の管理に努めた。

## 4 経営の効率化

以下のとおり、各事項とも計画を上回る経費節減に努めた。

### ① 組織の効率的運営

- ・嘱託職員を再雇用により継続採用し、効率的な運営を図った。

### ② 事務経費の節減

- ・昨年度に引き続き、事務用品、印刷物等の事務経費の節減に積極的に取り組み、一般管理費の大幅な縮減を図った。
- また、「エコオフィス自己評価」を継続して実施し、省資源の意識向上に努めた。

### ③ 人件費の縮減

- ・人件費については、組織の見直しにより県派遣職員から嘱託職員への移行による再雇用を継続し、人件費の縮減を図った。
- また、ノー残業デー、リフレッシュデーの周知徹底と超過勤務縮減計画の策定による超過勤務手当の縮減を図った。

### ④ 人材の育成

- ・全国地方道路公社連絡協議会主催の研修会への職員派遣等により、人材育成に努めた。

### ⑤ 法令の遵守

- ・各種法令遵守の徹底を図るため、昨年度に引き続き「コンプライアンス自己評価」継続実施した。
- また、個人情報流出やホームページ等の情報セキュリティの確保について職員への指導、徹底を図った。

#### IV 事業収支結果

(単位:千円)

科 目		計画額(A)	実績額(B)	差額(B-A)	備 考
当期 収 益 (A)	道路料金収入	156,346	162,742	6,396	
	駐車場料金収入	23,558	21,837	△1,721	
	業務雑収入	0	111	111	
	受託業務収入	164,434	158,461	△5,973	
	業務外収入	50,515	50,981	466	
	収入計	394,853	394,132	△721	
当期 費 用 (B)	維持改良費	46,447	40,133	△6,314	
	道路管理費	39,797	43,018	3,221	
	駐車場管理費	7,223	6,826	△397	
	一般管理費	41,297	34,325	△6,972	
	業務外費用	52,080	52,097	17	
	受託業務費	164,434	158,461	△5,973	
	支出計	351,278	334,860	△16,418	
収支差 (C = A - B)		43,575	59,272	15,697	
償還金(建設資金) (D)		157,421	157,421	0	
前期繰越金		0	14,186	14,186	
収支差 (E)		△113,846	△83,963	29,883	

#### ○ 年度末長期債務残高計画

(単位:千円)

科 目		計画額(A)	実績額(B)	差額(B-A)	備 考
長期債務額(出資金含)		3,028,933	2,989,962	△38,971	
内訳	建設資金(出資金含)	1,053,088	1,053,088	0	
	収支差借入金	1,975,845	1,936,874	△38,971	

○ 当期収益は、有料道路の通行台数や回数券販売額の増加に伴い、道路料金収入が6,396千円増加したが、駐車場料金収入や受託業務収入が減少したため、計画額を721千円下回った。

また、当期費用は、労務単価引上げに伴う料金収受等の道路管理費が3,221千円増加したが、道路施設の補修等が計画を下回ったことによる減少や人件費の削減、物件費の節減等に取り組んだことにより、維持改良費、一般管理費、受託業務費等が減少し、当期費用全体では、計画額に対し16,418千円下回った。この結果、収支差実績は計画に対し15,697千円の増額となり、大幅な収支改善が図られた。これに伴い、長期借入金残高も計画より38,971千円の減額となり、計画を上回って債務額を減ずることができた。

## V 当面の課題と今後の取組み

### 1 有料道路の利用促進

あぶくま高原道路の全線開通効果による利便性が、利用者に浸透したことにより、全線開通後は年々通行台数が伸びているものの、平成27年度以降はその伸びは鈍化傾向となっていることから、回数券利用による経済性や東北道、磐越道を結ぶ時間短縮効果などの利便性のPRを継続して実施する。

また、引き続き沿線地域や隣県で開催されるイベント等において、関係機関、団体と連携を図りPR活動を行うとともに、沿線地域のイベント・観光情報などを適時、ホームページや料金所窓口での提供などの広報活動に取り組み、利用促進を図る。

### 2 有料駐車場の利用促進

駐車場の稼働率向上については、稼働率が比較的到低い2駐車場においては、現地に設置してある駐車場の案内及び利用者募集看板の更新や近隣の事業所等への利用者募集チラシの配付などを行い、目標達成に向けて努力していくこととする。

### 3 経営の効率化

組織の効率的運営については、プロパー職員の退職者や元県職員の嘱託職員への再雇用による組織体制で今後とも運営をしていくこととする。

なお、その他の事務経費の節減や超過勤務などの人件費の縮減等については、引き続き経営計画に基づく取り組みを継続するものとする。